

検討段階資料が含まれるため、一部資料を非公開としております。

資料 No.3

技術審議会
長期維持管理技術委員会(2019年度 第2回)

大規模更新事業の状況報告
(湊川付近)

阪神高速道路株式会社
2019年11月18日

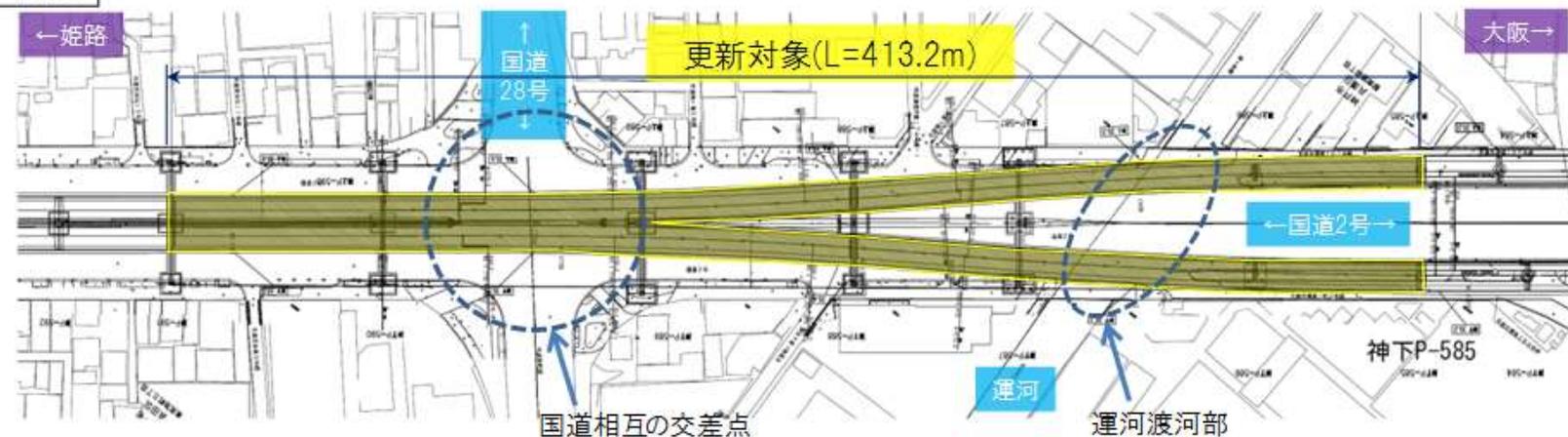
状況報告(湊川付近)位置図



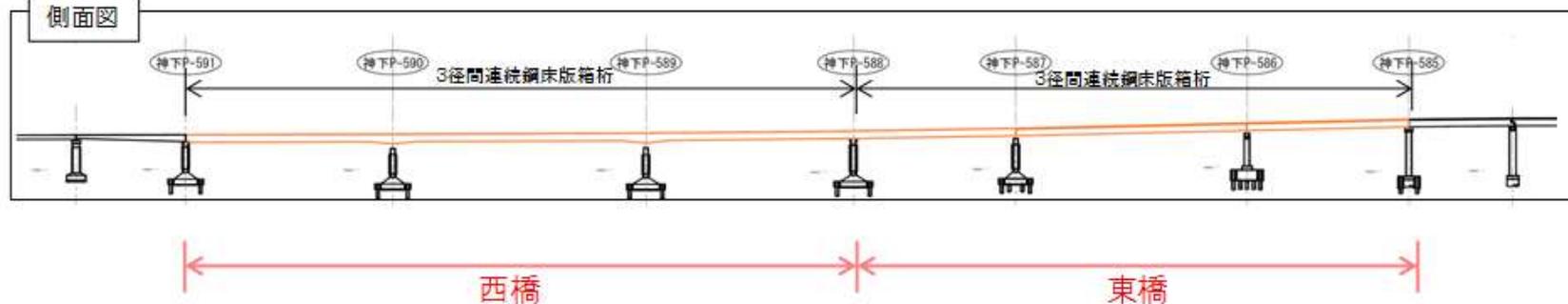
1. 対象桥梁の概要

- 1968年(昭和43年)開通
- 3径間連続鋼床版箱桁橋 (上下線分離、4連)
- 国道相互の交差点や、運河渡河部等により、支間長が長い。

平面図



側面図



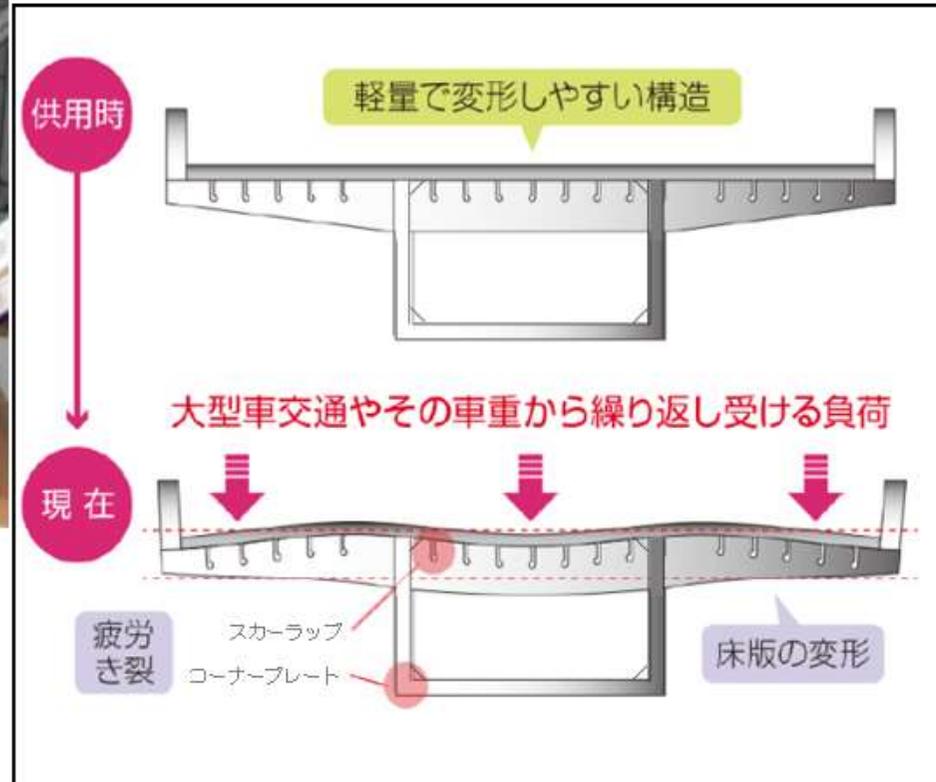
H30第1回委員会資料より

1. 対象橋梁の概要



構造の特徴

※一部修正



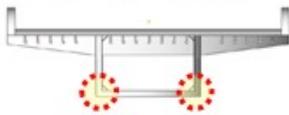
上部工軽量化のための配慮

- 桁高を低く設定
- 鋼床版を採用
- 横リブ間隔が大きい（東橋1.95m、西橋1.78m）
- ダイヤフラムはV形の対傾構を採用

4. 対象橋梁にて確認した損傷に対する対策状況

- 過去に確認していた損傷、事業化後に確認した損傷に対する補修および対策状況を下記に示す。

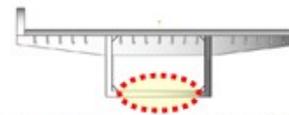
① コーナープレートと横リブ交差部



- H28に切欠き端部にてき裂の発生を確認
- き裂への当て板補修中
- 類似箇所にて損傷発生の懸念

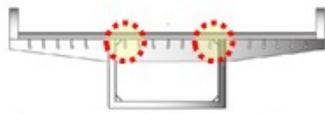
③ 下フランジの増設リブ部

【震災時のジャッキアップ補強】



- H28にき裂の発生を確認
- 予防保全を含み全箇所当て板対策済

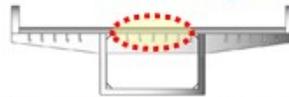
② 鋼床版の横リブ交差部



- 箱桁内は予防保全を含み全箇所当て板対策済
- H28に当て板部の詳細調査を実施したが、き裂の発生進展がないことを確認

④ デッキプレート開口部

【震災時の部材搬入用開口部】



- き裂確認箇所は補修済
- 予防保全を含み全箇所対策予定

9. 今後の進め方

- 事業化後の詳細調査にて、下フランジを貫通するき裂などの損傷が多数発見され、補修および対策を実施したが、今後もき裂が発生する懸念は残っている。
- 更新事業の基本方針は、今後の疲労き裂発生にも留意し、中間橋脚の設置・上部工架替の二段階施工とする。
(既設上部工を使い続ける間は点検の強化等を行う。)
- 上部工架替については、時期、施工方法や交通影響の低減など多角的な検討を実施する。
- 道路管理者、交通管理者などの関係者と調整を継続しつつ、現地状況に応じた中間橋脚の検討を進める。

状況報告(湊川付近) 現在の状況

中間橋脚を設置するための工事を契約

契約概要

- 工事名 湊川付近鋼製橋脚等大規模更新工事
- 契約先 MMB・森組特定建設工事共同企業体
- 契約日 2019/6/26
- 工期 2019/9/1～2023/2/28 ※余裕期間制度（フレックス工期）採用
- 契約額 1,572,000,000円（税抜き）

進捗状況

- 詳細設計に着手

	2019				2020				2021				2022				2023				2024年度～			
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1				
工事発注手続き																								
設計・工事																								

